

第39回 渋谷健一奨励賞

本賞は、渋谷健一先生（元本学理事長）の本学創立百周年を記念した篤志を尊重し、有為な人材の育成に資することを目的として、本学に在学する学生のうち、学術、文化、体育等の活動を通じて、卓越した成果を収めた者（団体を含む）を対象に授与するものです。

【学術・文化の分野（個人）】

島村 晟一朗	法学部 2年	全日本法律討論会は、関東、関西、九州瀬戸内の各地域における上位校で年に1度全国規模で討論する。最高裁判所、最高検察庁、日本弁士連合会などが後援し、国内屈指の由緒正しい法律討論会である。惜しくも第2位となったが、立論総合点では第1位と同点であったため、健闘の結果の優秀な成績と認められることから、本奨励賞への推薦に値する。
常木 有咲	法学部 2年	令和7年度第1回関東学生法律討論会に本学を代表する論者として出場し、立論の部で優勝という優秀な成績をおさめたことから、本奨励賞への推薦に値する。関東学生法律討論会は、関東の8大学が参加し、東京高等裁判所、東京高等検察庁、関東弁護士会連合会、有斐閣、日本評論社が後援している由緒ある法律討論会である。
阿部 凜花	経済学部 3年	景気循環学会高圧経済部会の税収弾性値予測コンテスト2024においては、税収弾性値だけではなく、税収と名目GDPの実績値との乖離も考慮する、2段階方式で選考される。これらのなかで、税収弾性値の予測の精度を左右する税収の予測は、最も難易度が高いとされる。阿部さんの税目ごとの税収の精度は高く、それに基づいて試算された税収弾性値の精度も高いことが評価された。なお、本コンテストには、金融機関のエコノミストをはじめとする専門家も応募しているが、彼女の予測精度は、専門家の精度よりも高いものであり、第1位入賞となった。このようなことを踏まえると、この成果は、本奨励賞への推薦に値すると考える。
黒沢 勇人	経済学部 3年	橋梁やトンネルなどの社会インフラの老朽化が進んでおり、打音検査を用いたコンクリート壁の内部の亀裂点検業務の需要が拡大している。しかし、打音検査は、異常音の聞き分けが検査者の感覚に依存しており、習熟には時間を要する。しかし、熟練者のリタイアにより検査自体の供給が追い付いていない。そこで、黒沢さんの論文では、安価なIoTデバイス上の人工知能で打音を解析、判定し、非熟練者であっても構造物の異常部判定作業を行うことのできる可能性を示したものであり、今後の活用が期待される。電子情報通信学会 ネットワークソフトウェア研究会の研究奨励賞は、2025年1月～12月に発表された論文のなかで、もっとも優れている成果に与えられるものであり、本研究の将来性を示している。
伊津野 武史	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	本学生は積極的に研究に取り組み、研究成果を学会等で発表することに励んでいる。ロボティクス・メカトロニクス 講演会 2024 in Utsunomiyaでは1359件の発表の中で長繊維と短繊維を複合した超伸長型空気圧アクチュエータに関する研究発表をおこなった。これについて研究の将来性を認められ、”日本機械学会若手優秀講演フェロー賞”を受賞した。以上より渋谷健一奨励賞に値すると考え、推薦する。また今回応募した超伸長型空気圧アクチュエータは特願2024-070038として特許申請をしている。
岩田 りえる	理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	岩田さんは、DNAトポイソメラーゼI阻害剤を基盤とした光感応型のヒト血清アルブミンコンジュゲートの合成と機能解析に取り組み、副作用を抑えたがん治療薬の開発を目指している。本研究はCSJ化学フェスタにて産官学の専門家から高く評価され、優秀ポスター賞（1,031件中188件）として表彰された。学業への真摯な姿勢と、優れた発想力・実行力を兼ね備えており、将来の創薬分野を担う有望な若手研究者として強く推薦する。
大垣 諭史	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	2025年3月2日～5日に台湾台北市で開催された査読付き国際会議2025 IEEE International Symposium on Underwater Technology (UT2025)にて、海氷掘削ロボットに関する研究成果を筆頭著者として発表し、「Second Prize in the Student Poster Competition for the paper」を受賞した。また、2025年11月15日に東京大田区で開催された国内会議The 22nd IEEE Transdisciplinary-Oriented Workshop for Emerging Researchers (The 22nd IEEE TOWERS)で実地環境における海氷掘削ロボットの実験に関する研究成果を筆頭著者として発表し、「Outstanding Poster Presentation Award」を受賞した。
小野 裕貴	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	学会名：IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (IROS 2025) 論文名：Development of a Cleaning Robot Capable of Self-Propelled Cleaning in Actual Environment Ducts Using a Planetary Gear Mechanism 受賞した賞名： ①SICE International Young Authors Award for IROS 2025 ②IES Student and Young Professionals Paper Assistance Program (IES-SYPA) 本論文「Development of a Cleaning Robot Capable of Self-Propelled Cleaning in Actual Environment Ducts Using a Planetary Gear Mechanism」は今まで清掃がなされていなかった厨房ダクト内を自走清掃可能なロボットとして、その学術的新規性と実環境下での実用性において他のロボットと比較して優れている。この論文は、ロボット分野におけるトップカンファレンスであるIEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (IROS 2025)に採択されただけでなく、①SICE International Young Authors Award for IROS 2025、および②IES Student and Young Professionals Paper Assistance Program (IES-SYPA)を同時に受賞し、国内外から高い評価を得ている。
桔梗谷 健太郎	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	学会名：国際学会 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (IROS) 論文名：論文「Development of a hard matter crushing peristaltic bioreactor inspired by an avian gizzard structure for Fermentation Acceleration」 研究発表：「Development of a hard matter crushing peristaltic bioreactor inspired by an avian gizzard structure for Fermentation Acceleration」 受賞した賞名：SIYA-IROS2025・IES-SYPA 本論文「Development of a hard matter crushing peristaltic bioreactor inspired by an avian gizzard structure for Fermentation Acceleration」は、鳥の砂嚢構造を模倣し、従来の装置では困難であった硬質基質（寒天ゲル）の破碎と発酵促進を両立させた点において優れています。この論文は、IEEE Industrial Electronics Society (IES)が支援する学生・若手専門家向けのIES-SYPAプログラムや、計測自動制御学会(SICE)のSIYA-IROS2025など、若手研究者の成果を表彰する国際的な賞の評価対象となる国際学会(IROS)において発表され、高い評価を得ています。
昆 裕樹 仁	理工学研究科 博士課程前期課程 電気電子情報通信工学専攻	昆裕樹仁君は、広帯域光センサの集積による非破壊検査カメラの創出に関する研究に従事している。「対象物の形と材質を同時に透視する独創的な手法」は社会インフラ検査への貢献度の高さが評価され、2025年度日本写真学会年次大会（栄えある第100回記念大会）では厳正な審査の下に学生優秀口頭発表賞を受賞した。また上記の成果は、昆君を筆頭著者として国際科学論文誌にも掲載された。故に渋谷健一奨励学生の候補者として推薦する。
齊間 広人	理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	官能基特異的物質精製法を活用した新規天然物の探索に、世界に先駆けて成功した。本手法を活用することで、医薬品や農薬シード化合物の探索が加速することが期待される。本研究成果は、天然物化学分野における国内最高峰の学会である第67回天然有機化合物討論会において奨励賞(ポスター発表の部 87件中4件)を受賞した。中央大学の研究が本賞を受賞するのは初めてのことであり、渋谷健一奨励賞にふさわしい成果と考える。
高 桑 凜 空	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	共同研究先の北海道大学所属の亀井佐似蔵さんがICAM2024にて発表した「Development of Augmented Jump SLIP model and Its Optimization based on Impulse Analysis」の共著者として、2025年度のロボティクス・メカトロニクス講演会にて日本機械学会分野融合研究優秀表彰を受賞。

田 島 旦 斐	理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	田島さんは、計算化学と統計解析を活用することで、化合物を一切消費することなく不安定な構造を持つ希少天然物の構造決定に成功した。さらに発見した化合物のうち6種は、希少な官能基であるペルオキシド基をもつ化合物であった。本成果は、天然物の構造決定における計算化学の有用性を示す好例と考えられる。本研究は公益社団法人日本化学会主催の第15回CSJ化学フェスタにおいて優秀ポスター発表賞(1,031件中188件)を受賞した。
立 本 今 日 子	理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	立本さんは量子化学計算と統計処理に基づく複雑天然物アロタミド A および Bの構造解明に関する研究を行い、その成果を第54回複素環化学討論会においてポスター発表し、アメリカ化学会後援の学生優秀発表賞 (ACS Publications Outstanding Presentation Award、127件中1件) を受賞した。立本さんは学業に真摯に取り組む、卓越した研究成果を収めたので強く推薦する。
土 谷 睦 月	理工学研究科 博士課程前期課程 ビジネスデータサイエンス専攻	理工学研究科ビジネスデータサイエンス専攻修士2年の土谷睦月氏は、レーダーセンサを用いた非接触のストレス推定手法について開発を行い、その内容が特に優れていると評価され、2025年9月10日-12日に University of Twenteにて開催された17th International Congress of Physiological Anthropology (ICPA2025) においてBest Poster Presentation Awardを受賞した。同成果はストレスの判別を連続的に非接触で可能にするものであり、企業や大学などの環境におけるストレスを計測することで、今後の環境設計や社会設計に寄与する可能性がある。
鶴 見 光 哉	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	The 22nd IEEE Transdisciplinary-Oriented Workshop for Emerging Researchersにおいて、「DMEの燃焼により駆動する人工筋肉のモデリングとスケール効果の検証」と題した研究発表を行い、TOWERS Best Award を受賞した。本研究は、燃焼を利用して駆動する人工筋肉の動作特性を理論的にモデル化するとともに、サイズの異なる人工筋肉に対するスケール効果を実験的に検証し、従来十分に明らかにされてこなかった出力特性の定量的理解に新たな知見を与えたものである。
原 駿 太	理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	原さんは新種のバクテリアを発見し、含有成分の探索を行った。その結果、9種類の新規天然物を発見し、構造を明らかにした。そのうちの4種は、希少な官能基であるヒドロペルオキシド基をもつ化合物であった。さらにこれらの化合物がマラリア原虫の増殖を抑える作用をもつことを見出した。本研究成果は、公益社団法人日本化学会主催の第15回CSJ化学フェスタにおいて優秀ポスター発表賞(1031件中188件)を受賞した。
星 谷 遼	理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	国際会議「6th International Conference of Materials Science and Engineering」において発表した「Polymerized Stromal-Free Hemoglobin Nanoparticles Coated with Serum Albumin as a Red Blood Cell Substitute」がPoster Presentation Awardを受賞した。ヘモグロビンからなるナノ粒子を合成し、構造、物性、安全性、有効性を明らかにするとともに、その溶液が赤血球代替物として機能することを医工連携で実証した成果が高く評価された。
山 路 悠 馬	理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	世界で約10種しか知られていない希少な官能基を有す新規天然物を新たに3種発見し、単離、構造決定、生物活性、構造活性相関を明らかにした。その中の1つは、抗がん剤の標的として注目を集めている酵素に対し、海洋天然物として最強の阻害作用を示した。本研究成果は、公益社団法人日本化学会主催の日本化学会秋季事業第15回CSJ化学フェスタ2025にて優秀ポスター発表賞(1,031件中188件)を受賞した。
渡 邊 葵	理工学研究科 博士課程前期課程 ビジネスデータサイエンス専攻	理工学研究科ビジネスデータサイエンス専攻修士1年の渡邊葵氏は、レーダーセンサを用いた非接触の呼吸特徴量推定手法について開発を行い、その内容が特に優れていると評価され、2025年11月8日-9日に京都女子大学にて開催された日本計算機統計学会第39回シンポジウムにおいて学生研究発表賞を受賞した。同成果は病的呼吸の判別を非接触で可能にするものであり、低血糖症や睡眠時無呼吸症候群など様々な疾患の早期検知が一般家庭で検知可能となる可能性がある。
馬 鳥 沙 希	理工学研究科 博士課程後期課程 応用化学専攻	日本化学会秋季事業「第15回CSJ化学フェスタ2025」において発表した「ウイルス模倣ナノ粒子を検出できる高分子チューブマイクロモーターの合成」が優秀ポスター発表賞を受賞した。水中に微量のインフルエンザウイルス模倣ナノ粒子が存在する場合のみ、高分子チューブが自走するシステムを構築し、ウイルスの有無をチューブの自走挙動だけで検出・定量するシステムを確立した成果が高く評価された。
藤 澤 隼 矢	理工学研究科 博士課程後期課程 応用化学専攻	「第168回日本獣医学会学術集会」において発表した「動物用アルブミン製剤“ポリオキサゾリン結合ブタ血清アルブミン”」が日本獣医学会学術集会優秀発表賞を受賞した。ブタ血清アルブミンに生体適合性高分子であるポリオキサゾリンを結合した複合体を合成し、構造、溶液物性、安全性、有効性を明らかにするとともに、その溶液が動物用アルブミン製剤(人工血漿)として機能することを医工連携で実証した成果が高く評価された。
梅 川 璃 空	文学研究科 博士課程前期課程 心理学専攻	日本学術振興会特別研究員(DC1)に内定、The Australasian Experimental Psychology Conference and Asia Pacific Conference on Vision Joint Meeting 2025でBest Student Presentation Award受賞、その他既に別の国際学会でTravel Award受賞、現時点で査読付英語論文も2本あるため、渋谷健一奨励学生候補者に推薦する。
佐 々 木 浩 汰	文学研究科 博士課程前期課程 心理学専攻	佐々木氏は日本認知心理学会第22回大会において、「生き物らしさを排除した不気味の谷現象：知覚的・認知的処理流暢性の影響」というタイトルで研究成果を発表し、同時に2部門(新規性・発表力)で優秀発表賞を受賞した。発表では「不気味の谷」という感性評価における現象について、従来のモデルでは説明できない研究結果を報告し、新たな仮説を提案した。今後、本分野を牽引していく人材であるため、佐々木氏を推薦する。

【学術・文化の分野(団体)】

精密機械工学研究部 エコラン班 佐藤輝一(他6名)	精密機械工学研究部エコラン班は、1から設計および組み立てを行い、独自の車両を製作し、鉛バッテリー1個で120分の競技時間でコース周回数を競うWorld Electric Vehicle Challenge in NATORIに参加した。製作車両の優れた走行安定性と省エネ性能が認められ、初出場にもかかわらず8大学生チーム中2位に入賞した。
ドローン研究会	ドローン研究会は、映像制作・表現活動に継続的に取り組み、学内外において高い評価を受けた。大学コンソーシアム主催「第17回学生発表会」では、周知用ポスターデザインにおいて最優秀賞を受賞し、企画力と表現力の高さを示した。また、「第2回しまなみDRONE国際映画祭」フリー部門で入賞を果たし、映像作品としての完成度と独創性が評価された。これらの成果は、多方面な表現分野における学生の可能性を示すものであり、推薦に相当するものと考えられる。

【体育の分野（個人）】

三宅 太生	法学部 3年	①第65回全日本学生選手権トラック自転車競技大会：男子4kmインディヴィデュアル・パシュート 1位 ②第80回全日本大学対抗選手権自転車競技大会（トラック）：男子4kmチームパシュート 1位 ③第63回全日本学生選手権チーム・ロード・タイムトライアル大会：1位 上記の通り、全国級の学生大会において複数の優勝を果たした。
山崎 奏汰	法学部 4年	①第62回全日本学生選抜競技ダンス選手権大会：ラテン総合の部 優勝 ②2025年全日本学生競技ダンス選手権大会：チャチャチャの部 優勝 上記の通り、優秀な競技成績を取めたので、推薦する。
中澤 拓哉	経済学部 4年	①第103回全日本スキー選手権大会：ノルディックコンバインド競技 男子グンダーセン10km 1位 ②第98回全日本学生スキー選手権大会：男子1部ノルディックコンバインド10kmフリー 1位 上記の通り、全国級の大会において複数の優勝を果たした。
植松 康太	総合政策学部 2年	①第94回日本学生陸上競技対校選手権大会：男子4x100m 1位 ②香港2025 U20東アジア陸上競技選手権大会：200m 1位 ③香港2025 U20東アジア陸上競技選手権大会：男子4x100mリレー 1位 ※U20アジア記録・U20日本記録 上記の通り、全国級の学生大会および国際大会において複数の優勝を果たした。
村佐 達也	総合政策学部 1年	①第101回日本学生選手権水泳競技大会：男子100m自由形決勝 1位 ②第101回日本学生選手権水泳競技大会：男子200m自由形決勝 1位 ③ジャパンオープン2025：男子400m自由形 1位 ④世界選手権（2025/シンガポール）：200m自由形 3位 上記の通り、全国級の大会において複数の優勝を果たした。

【体育の分野（団体）】

準硬式野球部	文部科学大臣杯 第77回 全日本大学準硬式野球選手権大会：2年連続14回目優勝（2連覇） 上記の通り、全国級の学生大会において、優勝（2連覇）を果たした。
スケート部	第98回日本学生氷上競技選手権大会 ファーストディビジョン：優勝（2連覇） 上記の通り、全国級の学生大会において、優勝（2連覇）を果たした。

第33回 三重野康・高木友之助記念学術奨励賞

本賞は、三重野康元日本銀行総裁及び高木友之助元総長の篤志を尊重し、有為な人材の育成に資することを目的として、学部学生のうち、経済、金融、政策等の諸科学の分野で、卓越した成果を取めた者に授与するものです。

山之口 昂志郎	経済学部 4年	論文タイトル：ESG投資の実効性と日本経済の発展 —TOPIX500企業のパネルデータ分析より— 推薦理由： 2025年度経済学部優秀演習論文選考委員会において、評価順位1位にて経済学部長賞を受賞した。 山之内昂志郎氏の論文は、日本の上場企業（TOPIX500構成銘柄）におけるESG活動が、その財務的パフォーマンスおよび実物的パフォーマンスに与える影響を、2014年から2024年のパネルデータを用いて実証的に明らかにしている。 同論文については、次の3点が高く評価できる。1つ目は、先行研究から「多くの研究がESG総合スコアという単一の指標を用いていること」と「統計的な推定に内生性の問題があること」を課題として明確にし、その課題に取り組んだことである。2つ目は、数千社におよぶサンプルという、演習論文としては大きなデータを扱っていることである。そして、3つ目は実証分析において頑健性の確認にも十分に気を配っていることである。 また実証分析で得た結果を真摯に受け止め、丁寧に現実的な考察をし、日本企業、政策当局、そして投資家に対して「日本の経済発展への貢献」の観点から提言を行っていることも高く評価したい。 以上の点を踏まえて、「三重野康・高木友之助記念学術奨励賞」候補論文として山之内昂志郎氏の演習論文を推薦する。
森部 優人 渡部 隼	商学部 4年	論文タイトル： 明治安田J1リーグにおける日本人選手の年俸決定構造に関する実証的研究 —競技スタッツと属性データを用いた回帰モデルによる検証— 推薦理由： 本論文は、J1リーグのサッカークラブと所属選手との間の年俸に関する情報の非対称性の存在を問題として措定し、客観的なデータに基づいて選手年俸の決定構造を可視化するために、ポジションごとに選手のパフォーマンスに関するデータと属性データを用いて回帰分析を行っている。なお、本研究では複数の一次資料を用い、独自に、5年間で延べ1,633名に及ぶ膨大なパネルデータセットを完成させている。分析の結果、FW、MF、DF、およびGKの全ポジションに共通して、年齢、出場時間、代表経験、W杯経験、所属クラブの売上高が、推定年俸に対して正の有意な影響を与えることが明らかにするとともに、ポジション毎の固有の影響要因を明らかにしている。 以上、研究目的の独自性、研究結果の有意義性、ならびに統計的な分析のために費やした労力と時間に鑑み、本論文は、三重野康・高木友之助記念学術奨励賞の候補者としての水準に十分に達していると思量する。
富田 佑奈 中嶋 慧人	総合政策学部 3年	論文タイトル：ポストコロナの働き方とメンタルヘルス —ディーセント・ワークに向けた政策提言— 推薦理由： 本研究は、学部生の研究としては到達度が極めて高く、修士論文としても十分に通用する完成度を有している。実施にあたってはAI・データサイエンスセンターの支援を受けつつ、分析設計から実証、解釈、政策提言までを主体的に構築し、大規模パネルデータを用いた高度な実証分析を自立的に遂行している。特に、長時間に及ぶテレワークがメンタルヘルスに負の影響を及ぼし得ることを非線形性に着目して実証した点は、政策的にも重要な知見であり、有為な人材の育成を目的とする本賞の趣旨に強く合致する。

第31回 船木勝馬学術奨励賞

本賞は、船木勝馬氏の篤志を尊重し、有為な人材の育成に資することを目的として、アジア諸国・地域からの留学生を対象とし、卒業論文、修士論文又は研究論文が、優秀と認められた者に授与するものです。

蘇 丞 軒	総合政策研究科 博士課程前期課程 総合政策専攻	論文タイトル： 情報公開と個人情報保護をめぐる政策—官報掲載を着眼点として— 推薦理由： 修士論文「情報公開と個人情報保護をめぐる政策—官報掲載を着眼点として—」は、官報に掲載すべき個人情報の公開と、その二次利用に伴う保護という現代的課題について、様々な判例・事例及び先行研究を的確に分析し、精緻な比較衡量の枠組みを提示している点で高く評価できます。
-------	-------------------------------	--

第31回 水野富久司スポーツ奨励賞

本賞は、水野富久司氏の篤志を尊重し、スポーツ振興の支援体制の一環として陸上競技部選手の育成に資することを目的として、陸上競技部に所属する学生のうち、長距離選手として優秀な成績を収めた者に授与するものです。

藤 田 大 智	文学部 3年 (陸上競技部)	第102回東京箱根間往復大学駅伝競走大会第1区 区間2位 (1時間00分37秒) この記録は、従来の第1区の中大記録を抜き、大会歴代2位の記録で素晴らしい結果である。今後も長距離種目での活躍が大きく期待される。
---------	-------------------	--

第29回 瀧野秀雄学術奨励賞

本賞は、瀧野秀雄氏の篤志を尊重し、少壮気鋭の研究者の研究活動を奨励することを目的として、本学准教授、助教若しくは専任講師又は大学院に在籍する学生であって、産業や技術開発の国際化にともなう知的財産権に関する研究論文が優秀と認められた者に授与するものです。

菅 沼 真 一	理工学研究科 博士課程後期課程 精密工学専攻	論文タイトル： 走行状態の時間履歴有無によるエンジン音評価推定モデルの構築 推薦理由： 本論文は、車両運転時のエンジン音知覚において、車室内音と車速や加速度などの車両情報を統合し、時間履歴の影響を定量化した点に新規性を有し、エンジン制御への応用が期待される。研究成果は特許（特願2025-205774）を出願し、また自動車技術会2025年秋季大会の発表と、査読付き論文2件を投稿している。さらに、国際会議（第6回日米音響学会ジョイントミーティング）にて発表し、約1700件より特に着目度が高い25件に選出され、Acoustics Lay Language Papersに掲載されている。
李 恒	理工学部 電気電子情報通信工学科 助教	論文タイトル： All-Solution-Processable Hybrid Photothermoelectric Sensors with Carbon Nanotube Absorbers and Bismuth Composite Electrodes for Nondestructive Testing Yuto Matsuzaki, Reiji Tadenuma, Yuto Aoshima, Minami Yamamoto, Leo Takai, Yukito Kon, Daiki Sakai, Norika Takahashi, Ryo Koshimizu, Qi Zhang, Naoko Hagiwara, Meiling Sun, Daiki Shikichi, Raito Ota, Sayaka Hirokawa, Yukio Kawano, Kou Li* (*最終責任著者), Small Science 5, 5, 2400448, 2025 (IF: 12, 掲載日: 2025年5月4日, selected as Frontispiece (同誌のVolume 5・Issue 5への採録に際し, 注目度が高く高インパクトな論文として扉絵イメージとしてハイライト選定)) 推薦理由： 李さんは「カーボンナノチューブによる光熱電変換」というこれまで独自に培った科学基盤から、世界でも最高感度かつ最広帯域な非破壊型イメージセンサを創出し、最終責任著者として極めて高インパクトな国際科学誌: Small Science (IF: 12)に原著論文を掲載させている。これらは申請者だからこそ成し得る成果として、モノづくりにおける安全品質保証という観点の知的財産研究を国際的に前進させる取り組みである。上記成果の影響は底知れず、同誌への採録に際する扉絵イメージへのハイライト選定に続き、電気電子研究分野における最高位賞の一つである第38回 安藤博記念学術奨励賞(受賞日: 2025年6月28日)に結実し、Chuo Vision 2035に向けた本学発の研究として高いプレゼンスを誇っている。

第29回 茨木龍雄学術奨励賞

本賞は、茨木龍雄氏の篤志を尊重し、都市環境学の分野における有為な人材の育成に資することを目的として、理工学部都市環境学科及び大学院理工学研究科都市人間環境学専攻に在籍する学生であって、都市環境学に関する研究及び人物がともに優秀と認められた者に授与するものです。

津 金 澤 和 希	理工学部 4年	論文タイトル： 断層パラメータを仮定しない波源推定手法における正則化パラメータに関する検討 推薦理由： 本論文は、観測データから波源を安定に推定するための正則化設定を体系的に検証し、仮定依存を低減した推定精度向上を示した。数値実験と理論整理により選定指針を提示した点も独創的である。津波早期評価や沿岸防災計画への応用性が高く、研究遂行力・発信力も優れるため推薦する。今後の発展と学術的貢献が大いに期待される。データ同化やリアルタイム運用にも大いに資する。
川 村 勇 斗	理工学研究科 博士課程前期課程 都市人間環境学専攻	論文タイトル： 水理情報が不足する都市域を対象とした内水氾濫解析の高度化 推薦理由： 川村勇斗さんは、成績優秀者対象の大学院給付奨学生に選出され、さらに国家公務員採用総合職試験（院卒者試験）に合格するなど、学業成績のみならずその努力と成果が高く評価されています。研究活動においても、河川技術論文集（査読付き）や土木学会論文集（査読付き）に論文が掲載されたとともに、多数の学会発表にも取り組み、高いプレゼンテーション能力を身に付けています。以上のことから、川村勇斗さんは他の学生の模範であり、茨木龍雄学術奨励賞の候補者として推薦します。

第29回 久保田昭夫・久保田紀昭女子スポーツ奨励賞

本賞は、久保田昭夫氏及び久保田紀昭氏の篤志を尊重し、スポーツ振興の支援体制の一環として女子選手の育成に資することを目的として、校友会体育連盟の部会に所属する女子学生であって、選手として優秀な成績を収めた者に授与するものです。

楠 田 夢 乃	文学部 2年 (水泳部)	FISU ワールドユニバーシティゲームズ (2025/ライン・ルール) : 女子200M平泳ぎ 1位 第101回日本学生選手権水泳競技大会： 女子100M平泳ぎ決勝 6位、女子200M平泳ぎ決勝 4位 第67回日本選手権(25M)水泳競技大会：女子200M平泳ぎ 2位 今後も日本の水泳界での活躍が大きく期待される。
村 田 結 依	経済学部 2年 (剣道部)	第59回全日本女子学生剣道選手権大会：1位 今後も日本の剣道界での活躍が大きく期待される。

第72回 学員体育会賞

本賞は、体育の業績において優秀な成績を挙げた本学の学生、団体に対し授与するものです。

【優秀団体賞】

卓球部	第94回全日本大学総合卓球選手権大会（団体の部） 優勝
準硬式野球部	文部科学大臣杯 第77回全日本大学準硬式野球選手権大会 優勝 令和7年度東都大学準硬式野球春季リーグ戦 優勝
スケート部	第98回日本学生氷上競技選手権大会 アイスホッケー競技 優勝 2025年秩父宮杯第72回関東大学アイスホッケー選手権大会 優勝
軟式野球部	第48回全日本学生軟式野球選手権大会 優勝 令和7年度東都学生軟式野球連盟春季リーグ戦 優勝 令和7年度東都学生軟式野球連盟秋季リーグ戦 優勝

【優秀団体部門賞】

自動車部	2025年度全日本学生ダートトライアル選手権大会 旧規定 男子団体 優勝 2025年度全日本学生ダートトライアル選手権大会 旧規定 女子団体 優勝
------	--

【努力団体部門賞】

自転車競技部	2025年度全関東学生ダートトライアル選手権大会 旧規定 女子団体 優勝 第63回全日本学生選手権チーム・ロード・タイムトライアル 優勝 山下 虎ノ亮（法4）、三宅 太生（法3）、大室 佑（法3）、三浦 一真（法1）
--------	--

【リレー賞】

陸上競技部	第94回日本学生陸上競技対校選手権大会 男子4×100mリレー 優勝 壇上 翔多郎（商4）、黒木 海翔（法2）、植松 康太（総政2）、三井 一輝（法4） 第104回関東学生陸上競技対校選手権大会 男子4×100mリレー 優勝 三井 一輝（法4）、黒木 海翔（法2）、植松 康太（総政2）エケ ジュニア瑠音（法3）
水泳部	第101回日本学生選手権水泳競技大会 男子4×100mフリーリレー 優勝 蓮沼 椋祐（経3）、村佐 達也（総政1）、光永 翔音（商2）、小山 陽翔（法4） 第101回日本学生選手権水泳競技大会 男子4×200mフリーリレー 優勝 嶋田 大海（商1）、村佐 達也（総政1）、光永 翔音（商2）、蓮沼 椋祐（経3） 第101回日本学生選手権水泳競技大会 男子4×100mメドレーリレー 優勝 三光 哲平（法4）、谷藤 大斗（法4）、村佐 達也（総政1）、光永 翔音（商2）
自転車競技部	文部科学大臣杯 第80回全日本大学対抗選手権自転車競技大会 男子4kmチームパーシュート 優勝 山下 虎ノ亮（法4）、釜田 佳典（法4）、三宅 太生（法3）、三浦 一真（法1）

【優秀選手賞】

田邊 奨	商学部2年（陸上競技部）	第94回日本学生陸上競技対校選手権大会 男子400m 優勝 東京2025世界陸上競技選手権大会 男子4×400mリレー、男女混合4×400mリレー 日本代表
本間 颯	経済学部3年（陸上競技部）	第102回東京箱根間往復大学駅伝競走 第3区 区間賞
中澤 拓哉	経済学部4年	①第103回全日本スキー選手権大会：ノルディックコンバインド競技 男子グンダーセン10km 1位 ②第98回全日本学生スキー選手権大会：男子1部ノルディックコンバインド10kmフリー 1位
村佐 達也	総合政策学部1年（水泳部）	世界水泳選手権2025シンガポール 男子200m自由形 3位 日本新記録 第101回日本学生選手権水泳競技大会 男子100m自由形 優勝 男子200m自由形 優勝 ジャパンオープン2025 男子400m自由形 優勝
日向 楓	理工学部2年（水泳部）	世界パラ水泳選手権2025 男子50mバタフライ 7位
中山 響	総合政策学部3年（水泳部）	FISU ワールドユニバーシティゲームズ（2025/ライン・ルール） 水泳 男子400m自由形8位 男子800m自由形7位 男子1500m自由形7位
楠田 夢乃	文学部2年（水泳部）	FISU ワールドユニバーシティゲームズ（2025/ライン・ルール） 水泳 女子200m平泳ぎ 優勝
弘中 花音	文学部2年（水泳部）	FISU ワールドユニバーシティゲームズ（2025/ライン・ルール） 水泳 女子4×200mフリーリレー 3位
野村 飛美樹	国際経営学部4年（自動車部）	2025年度全日本学生ダートトライアル選手権大会 旧規定 男子個人の部 優勝
古川 佳愛	法学部4年（自動車部）	2025年度全日本学生ダートトライアル選手権大会 旧規定 女子個人の部 優勝 2025年度全関東学生ダートトライアル選手権大会 旧規定 女子個人の部 優勝
角丸 陸斗	国際経営学部4年（スケート部）	第98回日本学生氷上競技選手権大会 アイスホッケー競技 最優秀選手賞 2025年秩父宮杯第72回関東大学アイスホッケー選手権大会 最優秀選手賞
馬場 俊輔	法学部5年（フェンシング部）	2025フェンシング世界選手権 男子フルーレ団体 5位

【体育賞】

藤 田 大 智	文学部3年（陸上競技部）	第102回東京箱根間往復大学駅伝競走 第1区 区間新記録
蓮 沼 椋 祐	経済学部3年（水泳部）	第101回日本学生選手権水泳競技大会 男子50m自由形 優勝
光 永 翔 音	商学部2年（水泳部）	第101回日本学生選手権水泳競技大会 男子100mバタフライ 優勝 FISU ワールドユニバーシティゲームズ（2025/ライン・ルール） 水泳 男子100m自由形 25位
澤 野 莉 子	文学部3年（水泳部）	FISU ワールドユニバーシティゲームズ（2025/ライン・ルール） 水泳 女子4×200mフリーリレー 出場
田 口 宜 知	理工学部1年（弓道部）	第56回全日本学生弓道遠の選手権大会 優勝
村 田 結 依	経済学部2年（剣道部）	第59回全日本女子学生剣道選手権大会 優勝
佐 藤 后 嶺	法学部2年（自転車競技部）	第80回全日本大学対抗選手権自転車競技大会 男子個人ロードレース 優勝
神 谷 亮 輔	商学部3年（重量挙げ部）	第71回全日本学生ウェイトリフティング個人選手権大会 男子73kg級 優勝
片 倉 裕 文	法学部3年（軟式野球部）	第48回全日本学生軟式野球選手権大会 最高殊勲選手賞

【努力賞】

岡 田 開 成	法学部2年（陸上競技部）	第37回出雲全日本大学選抜駅伝競走 第1区 区間賞
柴 田 大 地	文学部3年（陸上競技部）	秩父宮賜杯第57回全日本大学駅伝対校選手権大会 第4区 区間賞
相 野 七 音	文学部4年（準硬式野球部）	令和7年度東都大学準硬式野球春季リーグ戦 最優秀選手賞
伊 藤 光 翼	法学部4年（自動車部）	全関東学生自動車運転競技選手権大会 男子小型乗用の部 優勝
三 宅 太 生	法学部3年（自転車競技部）	第65回全日本学生選手権トラック自転車競技大会 男子4kmインディヴィデュアルバシュート 優勝
井 出 晃 太 郎	法学部4年（自転車競技部）	第65回全日本学生選手権トラック自転車競技大会 男子スプリント 優勝
植 松 史 弥	商学部4年（自転車競技部）	第65回全日本学生選手権トラック自転車競技大会 男子タンデム・スプリント 優勝
熊 谷 海 飛	商学部3年（自転車競技部）	第65回全日本学生選手権トラック自転車競技大会 男子タンデム・スプリント 優勝
三 浦 一 真	法学部1年（自転車競技部）	第10回全日本学生選手権個人ロードタイムトライアル自転車競技大会 優勝
枝 廣 愛	商学部4年（女子卓球部）	2025年関東学生卓球選手権大会 女子ダブルス 優勝
兼 吉 優 花	文学部1年（女子卓球部）	2025年関東学生卓球選手権大会 女子ダブルス 優勝
井 出 都 斗	国際経営学部3年（軟式野球部）	令和7年度東都学生軟式野球連盟春季リーグ戦 最高殊勲選手賞
藤 井 拓 海	経済学部1年（軟式野球部）	令和7年度東都学生軟式野球連盟秋季リーグ戦 最高殊勲選手賞

【特別賞】

長 田 孝 弥	1953年（昭和28年）卒（応援部）	長きに渡り中央大学アスリートを応援し本学スポーツ応援文化の醸成に尽力
---------	--------------------	------------------------------------

【学長賞】

田 邊 奨	商学部2年（陸上競技部）	第94回日本学生陸上競技対校選手権大会 男子400m 優勝 東京2025世界陸上競技選手権大会 男子4×400mリレー、男女混合4×400mリレー 日本代表
本 間 颯	経済学部3年（陸上競技部）	第102回東京箱根間往復大学駅伝競走 第3区 区間賞
中 澤 拓 哉	経済学部4年	①第103回全日本スキー選手権大会：ノルディックコンパインド競技 男子グンダーセン10km 1位 ②第98回全日本学生スキー選手権大会：男子1部ノルディックコンパインド10kmフリー 1位
村 佐 達 也	総合政策学部1年（水泳部）	世界水泳選手権2025シンガポール 男子200m自由形 3位 日本新記録 第101回日本学生選手権水泳競技大会 男子100m自由形 優勝 男子200m自由形 優勝 ジャパンオープン2025 男子400m自由形 優勝
日 向 楓	理工学部2年（水泳部）	世界パラ水泳選手権2025 男子50mバタフライ 7位
中 山 響	総合政策学部3年（水泳部）	FISU ワールドユニバーシティゲームズ（2025/ライン・ルール） 水泳 男子400m自由形8位 男子800m自由形7位 男子1500m自由形7位
楠 田 夢 乃	文学部2年（水泳部）	FISU ワールドユニバーシティゲームズ（2025/ライン・ルール） 水泳 女子200m平泳ぎ 優勝
弘 中 花 音	文学部2年（水泳部）	FISU ワールドユニバーシティゲームズ（2025/ライン・ルール） 水泳 女子4×200mフリーリレー 3位
野 村 飛 美 樹	国際経営学部4年（自動車部）	2025年度全日本学生ダートトライアル選手権大会 旧規定 男子個人の部 優勝

古川佳愛	法学部4年（自動車部）	2025年度全日本学生ダートトライアル選手権大会 旧規定 女子個人の部 優勝 2025年度全関東学生ダートトライアル選手権大会 旧規定 女子個人の部 優勝
角丸陸斗	国際経営学部4年（スケート部）	第98回日本学生氷上競技選手権大会 アイスホッケー競技 最優秀選手賞 2025年秩父宮杯第72回関東大学アイスホッケー選手権大会 最優秀選手賞
馬場俊輔	法学部5年（フェンシング部）	2025フェンシング世界選手権 男子フルーレ団体 5位

第43回 学員会会長賞

本賞は、在学生の士気の高揚を図り、本学の発展に寄与することを目的として、本学在学生のうち学術、文化、社会等の活動を通じて特に優秀な成果を収めた者に授与するものです。

【学術・文化・社会の分野】

八田菜月	理工学部 4年	八田菜月さんは、入学以来理工学部情報工学科にて常にトップクラスの成績を修め、2025年度には給付奨学生として理工学部長賞を受賞するなど、学科最優秀学生の一人として教員団に認知されています。卒業研究では、インターネット環境で3次元物体データを開示・配信する際の不正取得を防ぐ仕組みについて取り組んでいます。このテーマは八田さん自身の研究室内外での活動を通じて特定したものであり、主体的・積極的に取り組んだ成果をもとに大学院に進学してさらなる発展を遂げることが期待されています。また、自身の卒業研究とは別ではあるものの所属研究室が取り組んでいる企業との共同研究にも関わり、企業側に重要な意見を伝えたり、学生側の取りまとめを担ったりする優れた見識と協調性を備えた人物です。夏期インターシップに参画して視野を広げるなど、幅広く関心を持ち積極的に活動する八田さんは学生の模範として申し分なく、学員会会長賞にふさわしい人物として推薦します。
水山葵	文学部 4年	水山葵氏は2024年度前期に韓国の梨花女子大学校に留学した。留学中は様々なことを体験し、様々な人々と交流し、様々なことを考えたはずだが、その経験を活かして、現地で知り合った友人との心情的な交流を韓国語で見事に表現した。本エッセイは、韓国語のいわゆる「パンマル」（非丁寧表現）を駆使して書かれているが、「パンマル」を使いこなすには相当に韓国語が熟達する必要がある。本エッセイは、高度な感情表現方法、文章構成、韓国語能力が三位一体となって出来上がったものと言える。よって、水山氏を会長賞に推薦する。
宮本悟ゼミ 山口愛友佳（他3名）	経済学部 2年	「若者の政治参加を高める八王子市の地域戦略」をテーマにした本研究は、大学コンソーシアム八王子主催の第17回学生発表会にて最優秀賞を授与された。ゼミ生4名による本研究では、八王子市における若者の低投票率を向上させる方策を検討した。学術的な文献研究に加えて、瞬間的に上昇した2025年7月の参議院選挙の分析を通じて、①若年層のニーズに合った情報をSNSで発信する、②投票者に対するVoting Rewardsとして八王子の特産品と交換できる地域ポイント「桑都ペイ」を付与する、などの方策を提言した。審査員からは、経済効果をも見据えた提案である点が高く評価された。
和田光平ゼミナール 矢羽田班 中央大学 ECO ノミ 矢羽田 健人（他4名）	経済学部 3年	はりま産学交流会 企業×学生 事業プロジェクトコンテストは、学生が企業の実際の課題に挑み、発想力と想像力を社会実装可能な形で提案する実践型プログラムです。本選には全国からの多数の応募の中から選ばれた5チームのみが進出します。当該チームは企業課題を的確に分析し、「実社会にインパクトを与える」という理念に沿った具体的なビジネスモデルを構築しました。提案はSDGsに合致し、マイボトル活用促進やペットボトル削減など社会的価値の創出が評価されました。加えて、マーケティング戦略や収支計画、市場分析まで踏み込んだ実現性の高さは、学生として非常に優れた実践力を示すものであり、審査員からも高い評価を得ました。
八王子どんぐりーず 加藤 勇希（他3名）	商学部 3年	インター大会は、今年で71回目を迎える伝統ある学術的なプレゼン大会であり、日本における経済経営系の大会としては最大規模である。また、アカウンティング・コンペティションは、89チームが参加する会計系の最大規模のプレゼン大会である。前者で予選を突破し決勝に進出し、後者で優秀賞を受賞したグループは、約1年間に及ぶ研究活動の中で、コンサルティング会社の戦略商品となっているような管理会計システムではなく、一般に普及している伝統的システムであっても、原価意識や売上意識を適切に向上させることができれば、組織成員のつながりの健康感を高めることができることを明らかにし、独創的な研究成果を得た。ラージサンプルのデータを得て統計的な検証を行い、丁寧かつ多大な研究努力を傾注したことも高い評価を得た。
FLPメディア・ジャーナリズム プログラム松野良一ゼミ 小西 結音（他11名）	総合政策学部 4年	中央大学OBで、特攻で戦死した学徒の数はこれまで不明だった。FLP松野ゼミでは、各種名簿、学籍簿、資料館保存史料などから正確な数を割り出すことに成功した。また、大学の「後輩」と「先輩」という小さな繋がりを頼りに取材を重ね、13人の遺族からも証言を記録し、多くの写真や史料とともに、学内評論雑誌に特集という形で刊行することができた。これらの活動が朝日新聞によって全国に報道され、このことが中央大学の名声と評価を大いに高めることに繋がった。以上の理由から、学員会会長賞に強く推薦するものである。
中村研究室 蛇石 晴裕（他2名） 大槻 勇人・塩野 健太）	国際経営学部 3年	受賞論文「要介護者の増加抑制に向けた政策提言 - 効果的なフレイル対策の提案に向けて -」は、日本の介護市場での深刻な需給ギャップを緩和するため、需要側である要介護者・要支援者に着目し、自治体のフレイル対策に対して分析・提言を行ったものである。具体的には、市区町村レベルでの支援策を調べてデータベース化を行い、フレイルに該当する人数の変化を、ボワソン固定効果モデルを使って定量的に分析し、政策提言へとつなげている。本論文では、その丁寧で精緻な現状分析が高く評価されたことで上記を獲得しており、中央大学のデータサイエンス教育の質を社会へと示し、名声を高めることに貢献しているといえる。本賞候補者として強く推薦する。

【スポーツの分野（個人）】

田邊 奨	商学部2年（陸上競技部）	第94回日本学生陸上競技対校選手権大会 男子400m 優勝 東京2025世界陸上競技選手権大会 男子4×400mリレー、男女混合4×400mリレー 日本代表
本間 颯	経済学部 3年（陸上競技部）	第102回東京箱根間往復大学駅伝競走 第3区 区間賞
中澤 拓哉	経済学部 4年	①第103回全日本スキー選手権大会：ノルディックコンバインド競技 男子グンダーセン10km 1位 ②第98回全日本学生スキー選手権大会：男子1部ノルディックコンバインド10kmフリー 1位
村佐 達也	総合政策学部1年（水泳部）	世界水泳選手権2025シンガポール 男子200m自由形 3位 日本新記録 第101回日本学生選手権水泳競技大会 男子100m自由形 優勝 男子200m自由形 優勝 ジャパンオープン2025 男子400m自由形 優勝
日向 楓	理工学部2年（水泳部）	世界パラ水泳選手権2025 男子50mバタフライ 7位

中山 響	総合政策学部3年（水泳部）	FISU ワールドユニバーシティゲームズ（2025/ライン・ルール） 水泳 男子400m自由形8位 男子800m自由形7位 男子1500m自由形7位
楠田 夢乃	文学部2年（水泳部）	FISU ワールドユニバーシティゲームズ（2025/ライン・ルール） 水泳 女子200m平泳ぎ 優勝
弘中 花音	文学部2年（水泳部）	FISU ワールドユニバーシティゲームズ（2025/ライン・ルール） 水泳 女子4×200mフリーリレー 3位
野村 飛美樹	国際経営学部4年（自動車部）	2025年度全日本学生ダートトライアル選手権大会 旧規定 男子個人の部 優勝
古川 佳愛	法学部4年（自動車部）	2025年度全日本学生ダートトライアル選手権大会 旧規定 女子個人の部 優勝 2025年度全関東学生ダートトライアル選手権大会 旧規定 女子個人の部 優勝
角丸 陸斗	国際経営学部4年（スケート部）	第98回日本学生氷上競技選手権大会 アイスホッケー競技 最優秀選手賞 2025年秩父宮杯第72回関東大学アイスホッケー選手権大会 最優秀選手賞
馬場 俊輔	法学部5年（フェンシング部）	2025フェンシング世界選手権 男子フルーレ団体 5位

【スポーツの分野（団体）】

卓球部		第94回全日本大学総合卓球選手権大会（団体の部） 優勝
準硬式野球部		文部科学大臣杯 第77回全日本大学準硬式野球選手権大会 優勝 令和7年度東都大学準硬式野球春季リーグ戦 優勝
スケート部		第98回日本学生氷上競技選手権大会 アイスホッケー競技 優勝 2025年秩父宮杯第72回関東大学アイスホッケー選手権大会 優勝
軟式野球部		第48回全日本学生軟式野球選手権大会 優勝 令和7年度東都学生軟式野球連盟春季リーグ戦 優勝 令和7年度東都学生軟式野球連盟秋季リーグ戦 優勝

第10回 学員会会長奨励賞

本賞は、在学生の士気の高揚を図り、本学の発展に寄与することを目的として、本学在学生のうち学術、文化、社会等の活動を通じて優秀な成果を収めた者に授与する学員会会長賞に準ずる者に授与するものです。

【学術・文化・社会の分野】

江戸 桜子	法学部 3年	江戸さんは「適切な情報提供」という課題に、大学内、地域社会、国際的な様々な場面で幅を広げ継続的にとくみ、着実に実践を積み上げてきた。入学時に偶然出会った手話接客店にて、高校時代マスク生活で表情が見えなかったことから表情豊かな手話にワクワクを感じ、手話学習サークルに入会したのが始まりである。学ぶ中で聴覚障害を理解したいと1年後期から聴覚障がい学生を支援するノートテイクに参加、情報保障のさまざまな工夫を実践、グッドプラクティス賞を受賞した。この経験を通し聴覚障がい者と聴者が交わる場の少なさ、分断を生んでいる社会課題に気づき、デフリンピック周知企画を計画、地域企業等の協力を得、大規模な集客につなげた。手話資格を取得、今秋のデフリンピックではボランティアとして現場に立ち、国際大会ならではの情報保障や文化的配慮を体感、学内での支援との共通点と課題の広がりを実感した。様々な場所に足を運び、多くの方に情報保障を伝え、共生社会実現のために何が必要かの本質を探る発信源、受容体であり特筆すべき存在である。興味から始まった学びを自分の行動へつなぎ、課題を見つけ、関係者を巻き込みながら形にする力は卓越である。以上から本賞へ推薦する。
登地 杏介	法学部 3年	登地さんは「文京思い出横丁」で継続的に活動し、年ごとに役割の幅を広げ、今では祭り運営に欠かせない中核的な存在となった。強い責任感や高い企画実行能力が評価され、幅広い地域人脈を獲得、さまざまな地域活動への参画依頼を受けて、そこでもまた高い評価を得る循環となっている。老年層の地域の名士、ここをもっと居心地の良い住みよい地域にと集まる壮年層の住民、自分たちも地域づくりにかかわりたいと希望をもつ地域の子ども達に慕われ、様々な相談を受ける存在である。主体性と成長意欲に富み、実力をもちつつも謙虚に、様々な立場の住民の声を聴くことができ、フェアに接することができ、かつ、意見やアイデアを出すことができる、本地域にとって稀有な一目置かれた人財である。以上のことから本賞に推薦したい。
大木 陽向	理工学部 4年	大木陽向君は、学業や研究において大きな成果をあげただけでなく、ゼミ中の態度も真面目で質問もよくして何事にも積極的でした。同君の長所として、真面目に勉学に勤しむ日常に加えて、様々な新しいニーズに目を向けて、労を厭わない気質に見られます。研究以外の同君の長所としては、同級生や後輩の信頼が厚いことがあります。格別に煩がること無く努力して信頼に答えています。親切で人が良いことは、研究者としてはある意味で欠点かもしれません。しかし社会人として職務を遂行する際には、得難い性格といえます。このように大木君は学術面・性格面においても会長奨励賞に足る人材であり、ここに同氏を推薦するものがあります。
佐々木 巖	理工学部 4年	2025年度の第79回国民スポーツ大会ボクシング競技ライトヘビー級において第5位に入賞し、全国規模の舞台で優れた成果を収めた。また昨年度には全日本ボクシング選手権大会で準優勝という結果を残しており、高い競技力を継続的に発揮している点は特筆される。一方で、競技活動に加え、学修負荷の高い精密機械工学科において授業・実験に誠実に取り組み、研究室配属後は卒業研究でも高い成果を挙げている。限られた時間の中で計画的に研究を進め、課題設定から実験・解析に至るまで主体的に取り組む姿勢は、強い自己管理能力と粘り強さの表れである。競技と学修をともに高い水準で両立できている点は他の学生の模範となるものであり、以上の理由から本賞に推薦するにふさわしい人物である。
佐藤 秀明	理工学部 4年	佐藤さんは、専門科目や実験科目において、熱心に勉学に励み、最も優れた成績を修めている。学んだ知識や実験で得た知見を活かして、卒業研究の実験を確実に進めて、新しい成果を早い段階で出している。研究成果は国内会議および国際会議で発表されており、全学生の見本となる存在である。以上のことから、佐藤さんを学員会会長奨励賞の候補として強く推薦する。
笠島 千鶴	理工学部 4年	笠島千鶴氏は理工学部物理学科においてトップの成績を修め2025年度中央大学学長賞給付奨励学生に選出された。卒業研究において数理物理学の重要問題を解決し、英文学術論文を共著執筆するとともに国際会議で研究発表を行った。2026年度開始の中央大学大学院理工学研究科と台湾国立中央大学との博士前期課程ダブルディグリー制度の第1期派遣生（1名）として双方の大学院から入学許可を取得しており、2026年2月に台湾に渡航しプログラムを開始する予定である。帰国後は中央大学の大学院生としてリーダー的な役割を果たすことが大いに期待される。以上の顕著な活躍により、貴奨励賞候補者として強く推薦する。

津金澤和希	理工学部 4年	津金澤さんを、中央大学学会会長賞・会長奨励賞の受賞候補者として推薦いたします。津金澤さんは成績優秀者として日頃から真摯に学修へ取り組み、堅実に成果を積み重ねてきました。加えて、2024年1月の能登半島地震に際しては、継続的な支援をボランティアとして実施しました。これらの経験を契機に、現在は同地震に伴う津波の分析を卒業研究のテーマとして選び、現象理解を深めています。また、都市環境学科においても周囲との調整や情報共有を担い、積極的に取りまとめを行うなど、学修を円滑に進める役割を果たしてきました。学術的研鑽、社会への実践的貢献、ならびに学内での主体的な活動が一体となった実績は、本賞の趣旨に合致すると考えます。以上の理由により、ここに推薦いたします。
永野江里	理工学部 4年	永野江里氏は、本学の教育とアウトリーチ活動に多大なる功績を残し、「行動する知性」の体現をなし得ている。さらに、学部成績も極めて優秀であり、GPA3.89は理工学部の現4年生全体においてトップの成績となっている。しかも、就職や卒業が決まった後の3月においても、学生生活の集大成として、中央大学内で初となるCPR講習開催への準備を続けている。全力で学業と課外活動に取り組む姿勢は本賞に十分値するものである。
橋本紗英	理工学部 4年	橋本さんは、入学当初からAI・データサイエンス分野に興味・関心を抱き、全学プログラムを自主的に履修するだけでなく、そこで得た知識とプログラミング能力を活かすべく、3年次に上村研究室においてショウジョウバエの行動研究を行いました。生命科学科では、卒業研究は4年次に実施します。橋本さんの研究はそれに先立っての自主的な取り組みであり、その積極的な姿勢は高く評価できます。また、橋本さんの構築したツールは、複数個体の行動を詳細に解析する技術的基盤として重要で、動物行動研究の進展に寄与する成果として学会発表もなされました。以上の成果から、橋本さんが今後、医療・生命科学分野におけるAI活用研究を牽引してくれることを期待し、本賞候補者として推薦する次第です。
平田恵大	理工学部 4年	平田恵大さんは、情報工学全般の幅広い知識を習得し、理工学部情報工学科入学から現在に至るまで常にトップクラスの成績を修めている。卒業研究では、製造業における施設配置問題に意欲的に取り組んでおり、大学院進学後にはさらなる研究の発展と国内外の学会会議での論文発表等が強く期待される。平田恵大さんは他の学生の模範となる学生であることから、中央大学学会会長奨励賞の候補者として強く推薦いたします。
三島孝太	理工学部 4年	数学をきちんと理解するには時間がかかることを自覚しており、十分な時間を使って考える習慣が身につけている。授業に参加するだけでなく、時間外に演習問題等に積極的に取り組んできたことにより、数学の広い分野において充実した知識と理解を獲得している。これらの結果、厳密な定義にもとづき抽象的な概念を運用する高い数学能力を身につけている。ゼミでは深い理解にもとづいて分かりやすく発表するとともに、友人と議論を交わしながら数学の理解を深めており、他の学生に対しても良い影響を与えている。以上の理由により、学会会長奨励賞にふさわしいと考え推薦する。
水摩裕貴	理工学部 4年	水摩裕貴さんは、学業成績がきわめて優秀であることはもちろん、確かな基礎学力をもとに多くの実験を繰り返し、卓越した成果を生み出した。その内容は日本化学会第106春季年会（2026年3月）において発表される（本人が口頭発表）。協調性と自主性を兼ね備え、自らの視点で研究を進められる秀逸な学生である。2026年4月からは中央大学大学院博士前期課程に進学し（推薦入学）、引き続き本学で研鑽を積むことが決まっている。近い将来、前途有望な若手研究者として活躍するものと期待され、学会会長奨励賞候補の最適者だと判断する。
石田優太	国際情報学部 2年	当該学生は、入学当初から学修活動を精力的に進め、大変優秀な成績を収めている。このたび、当該学生は本年度に実施された「応用情報技術者試験」に合格した。「高度IT人材となるために必要な応用的知識・技能をもち、高度IT人材としての方向性を確立した者」（実施団体：情報処理推進機構WEBサイト抜粋）と位置付けられる「応用情報技術者試験」に2年次で合格を果たしたことは大いに評価できる。卒業後の進路も見据えた学修に取り組んでおり、今後のゼミ活動等を通じて、本学部での更なる活躍が期待されることから、本奨励賞に推薦する。
金原英佑	国際情報学部 2年	当該学生は、入学当初から学修活動を精力的に進め、優秀な成績を収めている。このたび、当該学生は本年度に実施された「応用情報技術者試験」に合格した。「高度IT人材となるために必要な応用的知識・技能をもち、高度IT人材としての方向性を確立した者」（実施団体：情報処理推進機構WEBサイト抜粋）と位置付けられる「応用情報技術者試験」に2年次で合格を果たしたことは大いに評価できる。今後も、情報系のみならず法律系の資格試験への挑戦も計画しており、更なる活躍が期待されることから、本奨励賞に推薦する。
本間理子	国際情報学部 3年	当該学生は、入学当初から学修活動を精力的に進め、優秀な成績を収めている。また、ゼミでの研究活動においても積極性を発揮し、国内外での学会発表を複数経験している。このたび、当該学生は本年度に実施された「応用情報技術者試験」に合格した。「高度IT人材となるために必要な応用的知識・技能をもち、高度IT人材としての方向性を確立した者」（実施団体：情報処理推進機構WEBサイト抜粋）と位置付けられる「応用情報技術者試験」に3年次で合格を果たしたことは大いに評価できる。卒業後のキャリアプランも明確であり、本学部を牽引する存在としての活躍が期待されることから、本奨励賞に推薦する。
松本叶夢	国際情報学部 2年	当該学生は、入学当初から学修活動を精力的に進め、大変優秀な成績を収めている。このたび、当該学生は本年度に実施された「応用情報技術者試験」に合格した。「高度IT人材となるために必要な応用的知識・技能をもち、高度IT人材としての方向性を確立した者」（実施団体：情報処理推進機構WEBサイト抜粋）と位置付けられる「応用情報技術者試験」に2年次で合格を果たしたことは大いに評価できる。今後のゼミ活動等を通じて、本学部での更なる活躍が期待されることから、本奨励賞に推薦する。
三輪華織	国際情報学部 4年	当該学生は、入学当初から学修活動を精力的に進め、優秀な成績を収めている。また、ゼミでの研究活動においても積極性を発揮し、国内外での学会発表を複数経験している。このたび、当該学生は本年度に実施された「応用情報技術者試験」に合格した。「高度IT人材となるために必要な応用的知識・技能をもち、高度IT人材としての方向性を確立した者」（実施団体：情報処理推進機構WEBサイト抜粋）と位置付けられる「応用情報技術者試験」に合格を果たしたことは評価に値する。本学卒業後は、金融業界への就職を決めており、本学部を代表する卒業生のひとりとしての活躍が期待されることから、本奨励賞に推薦する。
麻尾ゼミ水曜四弦 田村優芽・三上翔子	法学部 3年	二人はチーム名「水曜四弦」として「赤坂から始まる、未来と伝統の融合」を提案した。評価としては「オーバーツーリズムによる近隣住民への影響、そしてスマホの存在を忘れてしまうような体験をという、学生らしい問題意識を「お祭りコンセプトのピアガーデン」というアイデアに見事に昇華させた。何らかのハンディキャップがあっても楽しめる施策、つまり誰一人取り残さない考え方も盛り込まれ、また赤坂地域が持つ資源を有機的に結び合わせて価値を創出した。「心揺さぶられる提案をありがとうございます！」とコメントされ、1位を獲得していることから、本賞の受賞に相応しい候補者として推薦したい。
主権者教育サークル Vote at Chuo!!	法学部	令和6年明るい選挙推進優良活動表彰において最高賞を受賞、全国の若年層への投票啓発学生組織の中でも卓越した存在である。とくに、選挙管理委員会直属でもNPO法人でもない大学生がサークルとして主体的にアクティブに主権者教育出前授業までを行うケースは他に類を見ない。大学サークルには代替わりが発生し常に新陳代謝があり柔軟な活動が可能である点、単に投票を促す授業でなく、若年層が投票という行為を通じ社会に対して主体的に考える力を養う授業設計を行っている点、一方通行でなく対話を重視した授業設計を行っている点が、高く評価された。全国的に選挙啓発団体が縮小傾向にある中で、高頻度、かつ安定した授業提供を行っており、自治体教育委員会からの信頼も非常に高い。学校だけでなく、3自治体にて職員研修を行ったり、選挙管理委員会だけでなく教育委員会や税務署と連携して授業を実施した実績もあり、多様なセクターとの協働も強みである。以上から本賞に推薦する。

チーム防災支部 石川美藍（他14名）	法学部 2年	法学部のキャンパス移転により、地域活動を行ってきた学生組織の多くが活動エリアの新規開拓という課題に苦悩する中、当該組織は区内の小中学校や地縁組織と堅実、着実に対話を重ね、信頼を得、教育機関の正課授業活動まで結実し、かつ協力機関も増加している。一たび協力した教育機関からはその後継続的な協力依頼を得ていること、学校同士の紹介の輪が広がっていることから、その活動の評価の高さがうかがえよう。 こどもの時点から防災意識を高めることは、必要な学びであると同時に、教育機関にとっても難度の高い課題である。チーム防災が有する「楽しく学ぶ防災コンテンツ」や「こどもたちとの対話スキル」は特筆すべきであり、今の子ども達が経験していない東日本大震災の経験をやさしい言葉で伝えたり、地域の小学校中学校に中央大学の名を高く周知している点でも大変貴重な存在である。以上のことから本賞に推薦したい。
経済学部 佐々木ゼミ医療班 押川莉菜（他3名）	経済学部 3年	環境経済学を専門とするゼミによる第13回環境経済・政策インターゼミナール大会が2025年12月6日（土）に立教大学で開催された。今年の参加校は、成蹊大学、神奈川大学、立教大学、中央大学から合計10チームの研究報告があり、当該研究が最優秀賞を3年連続で受賞した。最優秀賞の受賞は立教大学などの同規模大学と比較し本学部のGFSの教育効果や学生の研究レベルの高さの証左であり、学内のゼミ活動の活性化に繋がり、経済学部の広報効果としても高く評価できるため、中央大学学員会会長奨励賞に推薦する。
宮本悟ゼミ スパナボ 中島大斗（他4名）	経済学部 4年	「詐欺防止すごろくで作る老後の安全」をテーマにした本研究は、第6回立川プレゼンプロジェクト（大学生の部）にて高く評価され、2025年2月6日に審査委員長賞を授与された。ゼミ生5名による本研究では、高齢者の被害件数が顕著な増加を記録している特殊詐欺事件への対応策を検討した。基本的対策としては、詐欺事件に対する高齢者の意識を高めるために、高齢者と学生との交流活動を提案した。発展的対策としては、水戸市の認知症防止すごろくを応用した「詐欺防止スパナボすごろく」を提案し、試作した。審査委員会からは、立川市・水戸市調査を執行可能性の高い重層的対策に結びつけた点が特に評価された。
宮本悟ゼミ緑茶 曾根梓（他4名）	経済学部 4年	「体験格差解消に向けたアプローチ」をテーマにした本研究は、第6回立川プレゼンプロジェクト（大学生の部）にて高く評価され、2025年2月6日に審査員特別賞を授与された。ゼミ生5名による本研究では、社会的関心の高い子どもの貧困問題のうち、特に社会的対応が遅れている子どもの体験格差問題を取り上げた。子どもの育ちに多大な影響を及ぼすこの問題への対応策として、地域社会やNPOが直接的支援（体験提供・情報提供・相談事業など）を、国や企業が間接的支援（主に財政支援）を担うプラットフォームの構築を提言した。審査委員会からは、無料塾を中心に複数のインタビュー調査を敢行し、その調査結果を提言に活かした点が特に評価された。
メッセージズ 小杉吏玖（他7名）	経済学部 1年	メッセージズは1年前期実施の経済学部ビジネス・プロジェクト講座にて、積極的に外部企業（JALカード）への提案を行い、授業後も継続するだけでなく当初よりメンバーを増やし、活動している。 3年生が主対象のコンテストに後期に2回応募し、双方で3年生に伍して企画・プレゼンテーションを実施し、受賞するという成果を出した。彼らの企画力やプレゼンテーション能力を評価するが、それだけでなく、授業時に学んだものをそこで終わらせず、積極的・自主的に社会課題を考える姿勢は他の学生の範となるものであり、彼らを実践することは彼らの今後の益々の学びと発信を励ますだけでなく、在学生の士気の高揚につながると思われ、推薦するものである。
渡辺ゼミ スポーツビジネス班 岩崎直弥（他3名）	商学部 3年	SPJは2011年から毎年開催され、スポーツ産業学会主催の学術的なプレゼン大会である。本年度は30大学・66チーム・357名の学生が参加しており、日本におけるスポーツ政策やスポーツ産業に関する大会としては最大規模である。PwC賞を受賞したグループは、約1年間に及ぶ研究活動の中で、近年Jリーグの試合観戦者における若年層の割合の少なさを問題意識に据え、学齢期の児童の時に親と一緒にスタジアムにおいて直接試合観戦することで、「持ち越し効果」が作用し、児童が成人した時の観戦数を増やすことができるのではないかと仮説を立案し、大規模サンプルの統計分析を駆使して実証している。そして、その分析結果に基づき、スポーツ組織の運営実践に対して積極的な提案を行っている。最後に付言すると、PwC賞の受賞チームには、プレゼンされた内容をさらに発展させ、そこで提案されたスポーツ組織の運営実践の実現に向けて働きかけるために、スポーツ産業学会から研究奨励金を授与される予定である。
中村研究室 阿部沙恵花（他6名 森脇美優・伊達惟吹・ 仲眞鈴花・前田拓海・ 佐々木柊二・澤村亜里咲）	総合政策学部 2年	申請団体は「『一緒に食べる』をデザインするー共食マッピングで広がるウェルビーイング」というタイトルで発表を行い、高齢者の孤食実態と共食への関心についてデータを用いて分析し、「子ども食堂の活用」というユニークな方法で共食を促すアイデアを提示した。それを評価されたの受賞となる。2年生でありながら最終選考に残り、高い評価を得たことは、本学の推進するデータサイエンス教育の質の高さを証明するものであり、本学の名声を高めるものと言える。中央大学における同教育を奨励する目的から、本奨励賞の候補団体として強く推薦する。

第27回 法曹会賞

本賞は、中央大学法曹会が学部在学中に司法試験に合格した者に授与するものです。

小林 昂 介	法学部 4年	在学4年次に司法試験合格
古田 柊 陽	法学部 4年	在学4年次に司法試験合格
夏目 丈	法学部 3年	在学3年次に司法試験合格

第40回 南甲倶楽部賞

本賞は学員会南甲倶楽部が、毎年卒業する学生のうち、学力優秀にて学問研究、文化活動、体育活動及び社会活動などの分野において顕著な成果を挙げ、本学の名声を高めると共に本学の発展に寄与した者を対象に授与するものです。（南甲倶楽部は実業界で活躍するOBが組織する団体）

佐藤 みづき	法学部 4年	法学部卒業生の中で、在学中の学業成績が優秀でありかつ所属ゼミでの活躍も顕著で、指導教員及びゼミ生からの信頼も厚い。以上の理由から南甲倶楽部賞受賞候補者として適格であると判断し、ここに推薦する。
山地 唯斗	経済学部 4年	2～4年次に学長・学部長賞奨学金制度における学部長賞奨学生に3年連続して採用されており、学業成績が極めて優秀である。 また、ゼミ活動においても積極的に活動しており、「低価格帯基礎化粧品市場分析」に関する演習論文を書き上げた。在学中は現代経済システムの分野・領域を重点的・系統的に学修し、企業経済クラスターを修了するなど、学業に取り組むその姿勢は、学生の模範となるに相応しく、南甲倶楽部賞受賞候補者として適格であると判断し、ここに推薦する。
中園 大心	商学部 4年	商学部内規「卒業生代表（総代）候補者及び南甲倶楽部賞候補者の選出に関する内規」にあるとおり、学業成績優秀でかつ公認会計士試験に在学中に合格した者に該当するため、ここに推薦する。
横井 美也陽	理工学部 4年	横井氏は在学中、学力・人物ともに優秀であり、学術および社会活動の両面で顕著な成果を挙げました。卒業研究では「参加型モデリングによるグリーンインフラ導入支援手法の検討」に取り組み、地域住民と連携したワークショップを企画・実施する実践的かつ先進的な研究を遂行しました。専門的知見を地域社会の文脈に丁寧に結び付け、参加者の議論をその場でモデリングにより可視化・還元する場を構築した点は特筆に値します。本研究は、地域のまちづくりに具体的示唆を与えるとともに、参加型モデリングの有効性を示す学術的意義を有するものであり、卒業研究の最終発表においても高い評価を受けました。 また、研究活動に真摯に取り組むだけでなく、研究室運営の改善や研究環境の向上にも主体的に貢献し、組織の活性化に寄与しました。その誠実で責任感の強い姿勢は、人物面においても高く評価されます。 以上の理由により、横井氏は南甲倶楽部賞にふさわしい人物であると確信し、ここに推薦申し上げます。
内藤 陽	文学部 4年	内藤陽さんは、成績が優秀であることはもちろん、推薦者の授業（教育課程論）においても、非常に模範的な受講態度を示しました。また講義内容や課題に関する疑問があれば積極的に質問し、常に能動的な姿勢を持ち続ける学生でした。 卒業論文では、「公民館再編」を研究テーマとし、「八王子市における公民館再編の実態 —公民館の廃止理由と公民館機能の存続から—」として研究を行いました。 本論文では、「公民館」から「生涯学習センター」への再編が行われた東京都八王子市を事例に、公民館廃止に至る背景、公民館と生涯学習センターの相違点を分析しています。具体的には、八王子市生涯学習センターにおける「社会教育団体」、「その他(個人・団体)」の利用状況、実施されている講座や事業から、従来の公民館機能が維持されていることを実証的に検討しています。その上で、市民における生涯学習活動の幅が広がっていると明らかにしています。結論においても、八王子市での公民館廃止の意義と課題を多角的・批判的に考察しており、極めて優秀な論文と認められます。 このような研究を行うことができたのは、内藤さんが入学当初から積極的に学び、多様な考え方を柔軟に受け入れ、それらを自らの思考の中で深く咀嚼する力を培ったからに別なりません。そして、その能力は社会人となってからも、必要不可欠で有用な力であると確信いたします。 よって、ここに責任を持って、内藤陽さんを南甲倶楽部賞に推薦させていただきます。
増岡 知広	総合政策学部 4年	総合政策学部の中でも卓越して優秀な成績を収め、GPAは在籍する政策科学科においてトップである。また、2～3年次には学力・人物ともに優れ、本学全体を活性化させる優秀な人材であるとして学長・学部長賞奨学金制度における学部長賞奨学生に2年連続採用されている。さらにゼミ活動にも積極的に参加し、担当教員より高い評価を得ている。以上の理由から、増岡さんを南甲倶楽部賞受賞の候補者として推薦する。
00I Huixin	国際経営学部 4年	国際経営学部卒業生の中で特に優れた成績を修めるとともに、卓越した卒業論文を執筆し、中野純司ゼミナールの代表学生にも選出された。スペイン語学習に高度に取り組むなど、入学当初から継続して高い意欲をもって学業に取り組んだことから、推薦したい。
土田 裕太	国際情報学部 4年	土田裕太さんは入学当初より意欲的に学修を進め、2年次後期からは情報セキュリティをテーマとするゼミに所属しました。成績優秀であることはもとより、研究の趣旨を的確に理解し、地道な努力を重ねて成果を積み上げる姿勢は特筆に値します。海外最先端プロジェクトに自ら改良を加え、本家開発陣も実現できていなかった機能改善を達成しました。その主体性・技術力・完成度はいずれも卓越しており、南甲倶楽部賞に強く推薦いたします。

第21回 東京白門ライオンズクラブ学術奨励賞

本賞は、東京白門ライオンズクラブが、有為な人材の育成に資することを目的として、博士課程前期課程・修士課程に在学する外国人留学生のうち、優秀な成績をもって課程を修了し、かつわが国と出身国を結ぶ架け橋として活躍が囑望される者に授与するものです。

全 沢 禹	法学研究科 博士課程前期課程 刑事法専攻	全沢禹氏は、現在、大学院博士前期課程において、インターネット上のSNSの広まりと相まって深刻化している誹謗、中傷といった犯罪行為、また、侮辱罪におけるサイバーハラスメントの問題に対する刑罰的対応の在り方を理論と実務の両面から検討しており、日本、中国、海外とを視野にいたれた比較法的研究手法は高い評価に値する。故国での学部在学時に大学の各種奨学金を受賞し、すでに中国の「法律職業資格試験」（日本の司法試験に相当）にも合格している全氏は、TOEFLや日本語能力試験において高い語学力を発揮しており、今後、後期課程に進んで博士学位を取得したのち、将来は、大学等の日本の高等教育機関に奉職して教育活動に従事し、引き続き刑法の研究に携わることを希望しており、その機会を得るべく一層の努力を重ねていくことが期待される。 以上から、全沢禹氏を東京白門ライオンズクラブ学術奨励賞候補者として推薦する。
-------	----------------------------	---